

コラム

「大きなかつ奇妙な言葉は要注意」

客員研究員 新井 光雄*

大きな、あるいは奇妙な言葉は要注意とかねがね思っている。具体的な内容を知らずにその言葉に飲み込まれてしまうからで、それが出てきたら注意ということにしている。最近では民主党総裁選に絡んで、小沢氏支持を表明した際に、鳩山首相が「大義」という言葉を口にした。何が「大義」なのか意味不明だと思ったが、そうか、と受け止めたむきも多かったにちがいない。政治信念としての「友愛」も同様である。むろん、否定するつもりもない。個人的に、今の生活があるのは目下、否定されがちな戦後民主主義のおかげと思っているところもあり、大きな言葉の効用もあることは十分に承知だ。戦後民主主義もそうだろう。

で、これはエネルギー問題にもある。大きな言葉でもないが、そのひとつに正確な意味が不明という言葉に『スマートグリッド』がある。ひと通りの勉強もしてみたが、すっきりしない。こうした時は「場」の活用・利用が便利だ。大学の授業で知っているか、学生に聞いてみる。地域の会合の二次会でさりげなく話題にしてみる。予想通りで、なんとなく聞いたことがあるような、という人が一人、二人いるが、中身となれば全くというのが現実で、ちょっと安心する。予想通りであったということと、聞かれればおおまかなざっとした説明が可能だからで、浅薄きわまりない当方の知識でも、地図で言えば場所を示すことができた程度にはなる。

こうしたことは『プルサーマル』という言葉でも同様に、大学時代のクラス会で試行して、知った友人が一割に満たないことを知っていたから、スマートグリッドなど知らないのが余りにも当然なのだが、エネルギー界という独特な世界のなかではスマートグリッドを知らない人はいないにちがいない。その幅、深さは百様なはずと想像するが、当方も一応のところしか知らない。

しかし、スマートグリッド議論は活発で専門雑誌などには目白押しとあっていいほど登場、議論は多岐に渡っており、正直混乱してしまう。ある関係者の話だと、スマートグリッドをテーマにシンポジウムを開くとちょっと驚くほどの反響があるという。それだけ言葉のインパクトがあり、その分、中身が不明で知っておこうという気持ちにさせられるということなのだろう。分る。この背景には、スマートグリッドは環境問題に関連する。実現すると温暖化ガス抑制になるという心情支持派の存在も大きいようだ。環境派の論客が「聞くだけで胸が高鳴る」とまで言っているのを聞き、納得した。確かに日本のスマートグリッドは新エネルギー大量導入に向けたもので、言わば日本型だ。環境派にとっては、大量導入の壁を破る意味があるから当然の期待なのだろうが、不明なのはどういう対策をとれば、という分かり易い指摘がほとんどないから、困る。それがあるとその是非の現実の議論となり、素人でも気持ちのうえだけでも議論に参加できるように思うのだが、まだ、そこまでの話にはなっていないようだ。言わば言葉先行という状況らしい。

それでもスマート効果というものもあるということは分った。大学の電気工学が少しスマートグリッド問題で活性化したらしい。電気工学など全くの専門外だから、その学問の動向などは話

* 地球産業文化研究所理事 元読売新聞編集委員

に聞くだけなのだが、最近、電気工学は不人気らしい。大学関係者によると学問のレベルがある限界にきてしまっているからだそうで、突破口が必要になっていて、その突破口のひとつがこのスマートグリッドで、学生も関心を高めてきたというのだ。

電気工学は大事。大きな発展性がある分野ではないらしいが、常に必要な学問だそうだ。門外漢が簡単に言うことは避けたいが、恒常的に不可欠な学問らしく、それだけに逆に古いということとで学生は一般的に敬遠気味らしい。そこにスマートグリッド。発展性が広がってきた。学生の関心が高まってきた。いいことであるには違いない。大いに肯定的にとらえたい側面だ。ある大学関係者は「応援してください。電気工学のルネサンスです」とまで言う。こうなると『大きな言葉は要注意』を、引っ込めたくなくなってくる。

迷走してしまった。いずれにしてもスマートグリッドは電力系統の話なのだろうが、これが難しい。基本的に電力は同時同量の産地直送などと砕いて話しても分らない人には分らない。くやしいが未だに九州の電気が北海道に伝わるという理屈が分らない。本州と北海道が送電線で結ばれた時に勉強会があって、系統専門家の講義を受けたのだが、多分、そこにいた記者で分ったものはいなかったらと思う。電力系統の話は本当に難しい。無効電力などという言葉もその時に覚えたのだが、意味不明のままだ。

となれば当然、大きな言葉に要注意などということ、スマートグリッド議論に異を唱えるなどできないわけだが、さりとして無関心で任せてしまえ、も無責任。要は具体的に何をしようとしているのか。何を指しての議論なのかを明確にする責任が関係者にあるということかと思うのだが、どうだろう。IT産業までが家庭のスマートグリッド化に関心を示しているというのだから、生活にも多いに関わる。その意味では国民レベルで関心を持つ必要があるとも思うのだが、現状はほど遠い。それでいいのかどうか。それで問題なのかどうか。この点も当方には判断の能力はなく、ちょっとした警戒心を持つに留まる。

スマートな説明がほしいと心底思う。

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp